

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800013		
法人名	株式会社ピース		
事業所名	グループホームほりいけ		
所在地	飯塚市堀池268番地1		
自己評価作成日	平成29年10月30日	評価結果確定日	平成29年11月20日
※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。			
基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php		

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成29年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「出来る事を維持し、持てる力を引き出せるよう見守り・寄り添う」ことを根底におき、入居者個人のペースに合わせた支援に取り組むようにしている。

・多くの入居者は自宅で過ごしたいという思いを胸に潜めながらホームに入所されているということ考虑し、ホームでの生活がより家庭的な雰囲気でご過ごせるように個人を尊重しつつ、団体生活に馴染めるような支援を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所以来の理念を玄関や事務室に掲示し、見守り寄り添いながら個性のあるケアを実践している。縫物が得意な入居者にエプロンや巾着を作れるように針や鋏を持ってもらったり、洗濯物たたみや食器洗いで皆の役に立ちたいとの思いを受け止めて支援したり、言葉の出なかった入居者は、ありがとうやごめんなさいと話せるまでになっている。自室で食べたいと自分のお膳を上げ下げしたり、タケノコを自分で調理する若年の入居者もいる。今年度も、地域医療機関の緩和ケアチームとの連携で10年来の入居者の終末期を支援している。自治会加入を継続し、保育所との交流や獅子舞の獅子に頭を噛んでもらう縁起行事も恒例となり、入居者の笑顔満載のホーム便りが家族に届けられている。今後も地域に密着した包括ケアの実践が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **すずらん／グループホームほりいけ**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの認知度やADLに対応した声かけや見守りを入居者に提供できるように、朝の申し送り時にスタッフと管理者とが意見交換をしている。	開所以来の「できる事を維持し持てる力を引き出せるように」との理念を玄関や事務室に掲示している。できる事を支援する個性のあるケアを日々話し合いながら、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年々入居者が高齢となり、外出での交流は難しくなっているが、年度末の保育所との交流会や、入居者家族のご紹介の踊りのボランティア、10月の地区行事獅子舞など定期的にホームにお越しただいて交流している。	恒例の保育所との交流で笑顔になる入居者も多く、巡行した獅子舞の獅子に頭を噛んでもらう縁起行事も継続している。自治会加入も継続し、市報や地区公民館行事の案内も届き、代表者が公民館の清掃に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の自治会長や青年部の方に施設のことをご理解いただき、現在の入居者の状況やようすをご理解いただくことでこの施設にどういった方々がいらっしゃるのかを知っていただき理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の担当者、地区自治会、地区青年部、ご家族に参加していただき、施設の現状や災害時の協力の依頼などを行いご意見を頂くようにしている。今回、ご家族のご要望もありスタッフ全員の名前がご家族にわかるよう名札をつけるようにした。	家族の参加もあり、適切なメンバーで定期的に関催され、議事録を玄関に公表している。ホーム行事や入居者の状況等を報告し、市担当職員からは体調管理に関する助言やイベントホールのパンフレットの持参がある。	3ヶ月毎に発行している入居者の笑顔満載のホーム便りや入居者の持てる力を発揮してもらう取り組みを報告し、参加者に更なる理解や協力をお願いされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢介護課や生活支援課の担当者の方と折にふれお話をさせていただき、入居者がより平穏な日々を暮らせるように情報交換をしている。	市の同業者協議会に参加し、情報の共有に努めている。地域包括支援センターから、空き室の問い合わせを受けることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊の恐れのある方には見守りに重点を置き、声かけで対処している。それでも尚徘徊行為を繰り返される場合は、スタッフが後を追いかけて様子を見て声をかけ、入居者の気分や体調に合わせ納得して帰所していただくように促し対応している。	職員は身体拘束となる具体的な行為を理解している。デイサービスに通っているつもの入居者の言動を否定せず、見守りや声かけをしているが、入居者同士の声かけもある。日中は玄関は施錠せず、入居者の身になって考えるケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内において虐待についてのマニュアルを作成し、身体的でなく、心理的な状況や言動、介護放棄等ありとあらゆる面が含まれることを理解し、自身の介護に活かせるようにミーティング時に話している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の入居者が成年後見制度を利用されており、実践として成年後見制度について考える機会を得ている。制度の有効性と共に不便性も感じている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレットを事務所前の壁に掲示している。緊急時は、家族と後見人の両方に連絡するなど、ホームとして最善の関わりに努めている。日常生活自立支援事業の活用はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族に重要事項説明書・利用契約書にて、利用料・施設の生活環境及び緊急時における対応等、金銭面や生活面などの多方面における疑問点を取り除けるように説明し、十分に理解し納得していただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時や利用料の支払いの際に、ご意見やご要望が気軽に話せるような雰囲気づくりに努め、出された意見や要望は申し送り時やミーティング時に検討し、今後に活かすようにしている。	3ヶ月毎に発行しているホーム便りは特に遠方のご家族に喜んでもらっている。入居者全員のスナップは家族に安心をもたらし、ホームへの信頼につながっている。市の介護相談員のポスターを掲示し、個々の家族に案内している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のスタッフミーティングにて意見交換を行っている。車椅子の入居者が増え、毎月の体重測定が困難となっていることから、スタッフ要望による車椅子体重測定器を購入した。	毎月定例会として、勤務者以外は全員が参加し、会議録を整備している。1日の業務の流れを見直したり、リネン交換や入浴の用意は担当職員で行うなど、率直な提案が実践されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	私用時の有給休暇取得や免許取得のための勤務調整、研修参加などスタッフ各自の生活スタイルや向上心に応じることが出来るように努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ハローワークや求人募集を通して職員の採用を行っており、特に性別・年齢・経験による基準は設定していない。本人のやる気や人柄を大切にしている。内外研修参加を促し、スタッフにとって有益になるように配慮している。	ハローワークやロコミで入職し、22歳～68歳と年齢に幅のある男女の職員が就労している。介護職の経験がない入職者もあり、夜勤に従事するまでの期間は段階に応じて検討するなど、人材育成に努力している。休憩室で昼休みを交互に取り、希望休の配慮もある。壁紙作りやレイアウトの得意な職員もあり特技を活かしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「利用者本位」であるということを常にスタッフに伝え、意識をもって接している。入居者に対してもスタッフ同士でも尊敬の気持ちをもって接するように心掛けている。	NPO法人主催の「認知症と向き合う」を演題にした研修に管理者が参加し、ミーティング時に内容を伝達している。入居者をそのまま受け入れるケアの実践から、入居者の人権を尊重する姿勢が伺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・介護に関する講座に参加していただき、勉強会、意見交換を行い、知り得る知識、技術を共有し、サービスの質の向上スキルアップを目指している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域密着型サービス事業所連絡協議会に参加し、研修会や他の事業所の活動情報を参考にしサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	顔や声を覚えていただけるようにさりげなく声かけしている。生活歴や趣味・嗜好等を聞き、時には冗談を交え笑顔を引き出し、安心して何でも話せるような雰囲気づくりと信頼関係を築けるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が思い描くサービスや介護への不安・希望・要望等をしっかり理解し、どのような支援をすべきかスタッフで話し合い実践している。ご家族と会話することでコミュニケーションを図り、何でも話し合えるような関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の希望・要望を聞き、状態や状況にあったケアができるように病院受診や訪問マッサージを利用する等対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな雰囲気の中でスタッフと共に残存能力を活かし、活躍の場を設け、やりがいや生き甲斐を見出し充実した日々を送って頂けるように支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的にご家族との会話を重ねコミュニケーションをとることで、いつでも気軽に立ち寄れるホームづくりをし、スタッフにも親しみを持ってもらえるように心掛けている。ご家族が常に現状把握できるよう面会時には近況報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みのある方々が来訪された時に、また立ち寄りたくなるようなホームの雰囲気づくりを心掛けています。近隣を散歩する際には、出会う地域の方々との挨拶や会話を大切にすることによって親交を深めるように努めている。	各ユニットとも家族の来訪が多く、家族に年賀状や暑中見舞いを出すように支援したり、家族に餅つきを案内している。以前同じ職場だった方や同じ町内の方の来訪もあり、「よう来てくれた」と喜ぶ姿もあった。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が支え合えるように、そして毎日穏やかに過ごせるように、食事の席・レクリエーションの席も考慮しており、孤立するような入居者が出ないようにスタッフも一緒に関わり合いを持つようにして、話題の提供をするなどして工夫している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていた入居者家族との関係は大切にしており、相談・連絡の取りやすいホームであるように努めている。絵画を定期的に寄贈して下さる家族や、ホームの行事に参加して下さる家族もあり、継続的な関わりを保っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活やレクリエーションの発言などから、ご本人の思いに十分に寄り添い、出来る限り意向を把握できるようにしている。その希望に可能な限り添えるようにスタッフは、日頃よりコミュニケーションを大切にしている。	基本情報やアセスメントシートを整備し、職員を担当制にして、思いや意向の把握に努めている。意向や思いの表出が少ない方には、「今幸せか」とか、「今困っていることは」と敢えて尋ねたりしている。	前回のアセスメントシートに、再アセスメント結果を印字の色を変えて加筆するなどの工夫で、さらなる意向等の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報提供を基に、これまでの生活歴、生活環境をスタッフ全員が確認し、理解して介助に活かせるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック・排泄・睡眠の状態を把握し、昼間の過ごし方、夜間の過ごし方を見て、心身状態に変わりないか把握できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り、毎月のミーティングでスタッフからの問題点・気づき等をその都度話し合っている。ご家族からも希望・要望を聞き、介護計画に活かすようにしている。	担当者会議で介護計画の作成や見直しを行い、できる事を維持し持てる力を引きだすケアを実践している。縫物が得意な入居者にエプロンや巾着を作れるように針や鋏を持ってもらったり、洗濯物たたみや食器洗いで皆の役に立ちたいとの思いを受け止めて支援したり、言葉の出なかった入居者が、ありがとうやごめんなさいと話せるまでになっている。	介護計画に家族の意向を明記し、本人や家族の満足度をモニタリングしていることから、家族の意向を検討課題に上げた担当者会議を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子・状態・気づきなどを個人記録に記入し、共有することで個々の介護支援に役立っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族からの相談状況に応じて、受診対応・送迎・諸手続き買い物等スタッフ対応及びスタッフ付き添いで行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の方々が、安心安全に生活ができるように、自治会・老人会・地区青年部やボランティアの方々の協力を得て、地域の行事にふれさせていただき楽しみの幅を広げるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の方が希望される病院で診療できるよう支援している。緊急時にも対応できるように、日々の状態を記録することで医師に報告できるようにし、主治医の指示にて対応している。	協力医療機関からの定期的訪問診療もあるが、透析などの疾患に応じたかかりつけ医の受診を支援している。チェックしたバイタル値を医療機関に報告し、ペースメーカーを装着した入居者もある。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の状態を把握し小さな変化でも対応出来るように情報を共有し、受診の際には伝えるようにしている。緊急時においては、電話報告にて指示を仰いでいる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療できるように入院時入院中と入居者に会いに定期的に病院を訪れ、病院とご家族の意向を含めた情報の交換をすることで入居者にとって最善な方向性を見つけるように支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、ご家族やスタッフ間で病状を報告し共有している。重度化した場合や終末期になった時は改めてご家族・ご本人の意向をお聞きし、スタッフで話し合い、出来る限り希望に添えるように主治医や関係者と連携し、ケアを実施している。急変時は、主治医に指示を仰いで対応している。	10年来の入居者が痙攣発作を起こし、主治医が家族に市内医療機関の緩和ケアチームを紹介され、ホームで4か月に亘り終末期に関わっている。24時間のバイタルや水分補給などの適切なチェックや支援は緩和ケアチームからお褒めの言葉があり、家族からも謝辞を受けている。経験値を増やししながら、今後も看取りに関わる予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時、状況に応じて救急車を呼んだり、主治医に連絡し、指示を仰いでいる。ミーティング時にはマニュアルの確認を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、夜間想定避難訓練を行っている。避難通路・入居者への対応などを確認し、実際に避難にかかる時間を計測している。災害時には地域の協力が必須であり、地域の方々との交流を大切にするように努めている。スプリンクラーを設置している。	今年度は4月、10月の2回避難訓練を実施している。火災だけでなく自然災害に関するマニュアルも整備している。運営推進委員の地域青年部の方は近隣在住で、地域の理解や協力を得ている。乾パンやポカリスエット等を備蓄し、行政指定の避難場所も確認している。	昨今は豪雨気象も多く、水害の発生が予測される地域でもあり、飲料水や水なしで炊ける米飯などを備蓄に加え、適切な管理をするために備蓄台帳の整備を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は人生の先輩であることを念頭に置き、プライドを傷つけないように一人ひとりの性格を把握し接している。また、ちゃんづけで呼ばれると笑顔になれる入居者の方もいらっしゃるのでご家族の了承を得て対応し、一人ひとりの思いを大切に言葉かけをしている。	入居者の生活歴や職歴、心身の状況に応じた声かけや対応が実践されている。調査員の訪室時は当該入居者に許可を得るなど、管理者の丁寧な対応から、日頃も誇りやプライバシーを尊重したケアの実践が伺える。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた声かけを意識し、ご本人の思いをくみ取り、引き出せるように、スタッフは遠慮なく話してもらえるような信頼関係づくりに努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムは大まかに決まっているが、入居者それぞれのペースに合わせた支援をするようにしている。食事も入居者各々に合った時間に、各々の食事形態に合わせて召し上がってもらっている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師の方に訪問していただきカットしている。また、昔馴染みの店を利用されたり、ご家族との外出時に散髪されている方もいらっしゃる。かつらを使用している方には使用時に付けて差し上げ、化粧をされる方には乳液等の定期購入をして支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフとの団欒やレクリエーション時に入居者の好みを聞き、定期的な食事会で提供したり、気候の良い日は屋外でおやつを召し上がっていただいている。入居者のお誕生日にはケーキにてお祝いをしている。使用したコップや皿は一緒に片付け、洗ってもらうなどお手伝いしていただいている。	今夏の本格的なソーメン流しや近隣の大型ショッピングモールでの外食は好評であった。入居者の咀嚼や嚥下状況に応じて、食事介助や声かけ、見守りを行っているが、好物しか食べない入居者には、栄養補助食を勧めている。自室で食べたいと自分のお膳を上げ下げしたり、タケノコを自分で調理する若年の入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事摂取・水分摂取量を把握し、摂取量が少ない方にはその人が好きな飲食物を定期的に提供している。食の細かい方は、2回に分けて食べていただくなど個人のペースに合わせて食事介助する工夫している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの講習を受け、その人に合った歯ブラシを使用し、口腔ケアをしている。義歯なども洗浄し口臭予防に努めている。定期的な歯科受診や訪問診療・口腔ケア等入居者に合わせた対応をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はおむつを使用せず、排泄状況に添いトイレ誘導・声かけを行ない、紙パンツ・パットで対応し、なるべくパット内ではなく便器内で排尿・排便できるように心掛けている。服薬で排尿感覚が短い入居者には、多めにトイレ誘導かけるなど臨機応変にしている。	トイレでの排泄を基本に支援している。下肢筋力の低下した入居者がトイレに行きたいとひとりでベットから立ち上がるため、センサーマットを活用したり、日中トイレに行くと自室が分からず他の居室を開ける入居者もあり、「ドアを開けないで」と大きく掲示している居室もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便状況を把握し、水分を多めに提供するなど工夫しているがそれでも排便がない場合は、3日を目安に下剤を服用していただいている。自然排便の方に関しては4日様子をみて座薬や服薬など、その方に合った排泄コントロールをしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	自立に近い方には、一部介助見守りにて入浴していただき、ゆっくり気持ちよかったといっていただけのように努めている。シャワー浴の方は、足浴を兼ねるなど配慮し、湯船に浸かって頂く際には体調に合わせ温度・入浴時間等個々に対応した支援をしている。仲の良い入居者の方同士と一緒に入浴されることもある。	入浴を楽しんでもらいたいと、ピンクやブルーの入浴剤を入れ、週3回の入浴を支援している。入浴を億劫がる入居者には同性職員が声掛けしたり、耳を押さえてなどの声かけが有効など、あの手この手で入浴を支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調に合わせ、日中は活動的に体を動かしていただけるようレクリエーションへの参加を促し、夜間ゆっくり安眠できるように支援している。また、昼食後には静養時間を設けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が服薬内容を理解できるようにし、チェック表に記入し確実に服薬を行えるようにしている。飲み忘れ、間違いがないように確認を行い、しっかり飲み込むまで見守りを行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗い物や洗濯物たたみ、草むしりや花植えなど日常的に出来る事をお手伝いいただくことで日々の生活を送って頂いている。入居者との会話を沢山し得られた情報から、好みの裁縫や塗り絵をしていただき、レクリエーションの時には入居者ご自身がどこからともなくホールに集まってこられるようになっていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションや日常の会話を通して入居者の希望や要望を聞き、天候や体調に配慮しながらスタッフと買い物に出かけたり、散歩や日光浴を行っている。ご家族と外出や外食されている方もいらっしゃる。	外の空気を吸うことで入居者の気分転換に努めたいと、定例会でイベントのない月の外出支援を話し合い、職員と買い物に出かけたり、病院受診の送迎時にドライブをしたりしている。家族と買い物に出かける入居者もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が金銭の自己管理が難しいので、ご本人・ご家族と相談し、お預かりする形をとっている。買い物にて外出するときは、一定金額をお渡しし、帰所時にレシートとお釣りをお預かりしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いはがきは、レクリエーションの時間を使って書いていただいたり、書けない方はスタッフの代筆にてご家族に送付している。電話は、ご希望された時に自由にかけさせていただいている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間においては、エアコン・加湿器を使用して快適温度を保つようにしている。冬場には床暖房を使用することで、足元から温め、湯冷め等の無いように配慮している。	玄関から入ると、もう1枚ドアが設置され、空調に配慮した構造になっている。共用空間の間切りはなく、中央にテーブルや椅子、片側に大型テレビやソファが置かれ、食後寛いだり、レクリエーションを楽しんでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に設置しているソファは、くつろぎの場所となっている。テーブルを活用し、グループで談笑したり、トランプやゲーム・塗り絵等の趣味に取り組みゆくりと入居者自身の時間を過ごしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の状態や希望に応じたベッドの配置をし、使い慣れた家具や仏壇等家で馴染みの空間づくりや、入居者の趣味嗜好による自分の空間づくりをしていただいている。	居室入口に入居者名と担当職員名が書かれた表札が掲示され、引き戸の把手に目印の縫いぐるみを掛けている方もある。床に畳を敷いたり、手摺りをつけたり、電動ベッドにセンサーマットやポータブルトイレが配置された居室もある。どの居室にも敬老の日に贈呈した顔写真の周りに職員のメッセージが書かれた色紙が掲示され、暖かな雰囲気になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全対策として全居室にナースコールを設置している。必要な入居者には転倒防止の為にセンサーマットを敷いて対応している。フラット床や手すりを設置し安全な生活が営めるようにしている。ふらつきのひどい方には、歩行器や車いすを使用していただくなど対応している。		